

2023年

春の読書感想文・課題作文優秀作品

【小学部・読書感想文】

「言葉屋 言箱と言珠のひみつ」を読んで

センター北校 H・Sさん（東山田小）

この物語の主人公は詠子という小学五年生の女の子だ。彼女のおばあちゃんは町で小さな雑貨屋さんをやっている。しかし、それは表向きで、本業は「言葉」を口にする「勇氣」や「言葉」を口にしないう勇氣」を提供する言葉屋だった。詠子はその見習いとしておばあちゃんの工房に入門し、成長していった。

私はまず「言葉屋」という題名に興味を強く持った。なぜなら、学校でクラス替えがあった時に、以前から仲の良い人や元々同じクラスだった人とは普通に話せたが、初めて同じクラスになったり転校してきた人とはどのように話せばいいのかイマイチ分からなくて困ったからだ。「言葉屋があったらどんなアドバイスをくれたらろう」と思いながら読んだ。

物語の中にあつた「どんなに不格好でも、言葉は自分で考えなければならぬ」という言葉が特に心に残っている。自分の本当の気持ちを伝えたくても上手く言葉にできないという時に「言葉を口にする勇氣」を使うのだが、その言葉は他の人のものではなく、自分自身で創りだしていかなければならないのだと気づくことができた。

「言葉をただの武器ではなく心をつなぐ橋にするのが仕事」という言葉屋のおばあちゃんの影響を受けて、詠子はハキハキとした口調で自分の気持ちをしっかりと伝えていたので私も見習っていききたい。それと同時に私は相手に言っていないことをつい言ってしまふ時がある。そういう時にもだまされたままではなく、すぐに謝罪の言葉を口に出せるようにしていきたい。

物語を読んで言葉の大切さを改めて知ることができたと思う。だから、まずはたくさん言葉覚えていきたい。そして、覚えた言葉を使っていきたい。そうすることで、自分自身の言葉で他の人たちと良い関係を築けるようになっていきたい。

【中学部・課題作文】

鶴川校 O・Yさん（鶴川第二中）

年賀状は新年を祝う挨拶状でお世話になった人や親戚に送る。私は今年、年賀状を送らなかつた。

資料を見ると、1では年賀はがきの発行枚数は十年間で三十六億枚から十七億枚へと減少し、2ではSNS利用者は五千万人から八千万人へと増加した。SNS利用者数の増加とともに年賀状は減少している。新年の挨拶をメールなどで済ませる人が多くなっているのだろう。私はこれを当たり前だと感じた。年賀状には時間がかかる。だから年を越してからLINEやメールで挨拶を済ますほうが気楽だ。私は、年賀状は必要ないと感じる。

私がつ通っていた小学校でははがきを送り合うイベントがあつた。私は友達から給食の栄養士さんにまでたくさんの人にはがきを送った記憶がある。相手のことを思いながら書くことはとても楽しかった。これが筆者の意見にもあるような自身のアイデンティティーに向き合うことだったと私は感じる。私はこれらをととても大切に思うが、時代の流れはそうではない。スモージャーナルの調査によると、日本のやめたい風習の一位は年賀状である。年賀状は面倒だと思われているのだ。私は面倒だと思いつながら伝えられる言葉に本当に感謝を込められるのか、疑問に思う。手軽なメールやLINEでも感謝する思いは十分に伝えることができると思う。

年賀状の本質は「新年を祝う挨拶をする」ことであつて、送ることではない。相手に新年の挨拶や感謝の思いを伝えることが大切である。他の風習や慣習でも同様だ。慣習や風習には形式にとらわれない変化が必要であり、そのようなものが継承されていくべきだと私は感じる。

私はこれからも、慣習・風習にある本質の部分を大事にしながら、感謝の言葉やお祝いを伝えることを大切にしていきたい。

長津田校 Y・Nさん（田奈中）

私は毎年、お世話になってる人や親しい友人、祖父母に年賀状を書くようにしているが、自分から積極的に出すのではなく相手から送られて来る年賀状に返事を書いているだけである。正月は外出することも多く、また何もせずにゆっくり過ごしたいため、年賀状を出すのは手間に感じる。今はメールやラインですぐにメッセージを送れるので私にとって年賀状は必要だとは感じない。しかし、手書きの年賀状を貰うと嬉しい気持ちになる。

資料Ⅰと資料Ⅱを比べると年賀ハガキの発行枚数が年々減少している一方で、SNSの利用者数は年々増加している。二〇二二年には八千人を上回るほどである。効率や利便性が重視される時代であるゆえの結果だろう。しかし、紙が電子という形に置き換わっただけで年末年始のあいさつという風習は残ると思う。時代と共に姿を変えていくことは、流れとして自然なことだと思う。

しかし、そんな中で私は残していかなければならない慣習、風習もあると考える。以前、あるお祭りを見た時に、日本人だけではなく、海外からの観光客の多さに驚かされた。海外の人は日本らしい文化や風習に触れるために日本に来ていると思う。逆の立場だったら、日本にはない外国独自の文化に触れたいと私は思う。それゆえ日本のお祭りや伝統芸能、文化をなくしてしまうと日本らしさを求めて観光しに来る旅行者が減ってしまうと思う。また、国際交流が当たり前の時代だからこそ、日本人としての自分のルーツを知り日本人である証として日本の文化を紹介したり、交流のツールとして利用したりもできる。

そのようなことから、伝統文化は日本人としての誇りや意識を高める意味で重要であると考え。慣習・風習は、人それぞれ楽しく感じるものや必要性を感じるものに違いはあるが、大切な意味があるものや学ぶこともたくさんあるため、その時代の変化に応じて姿・形を変えてでも受け継いでいくことは、大切だと考える。